

マツクイ虫被害調査について

米代西部森林管理署が管理経営している海岸防災保安林をマツクイ虫被害から守り、周辺地域への拡大を防ぐ防除事業のための被害調査を行いました。

対象地は、通称「風の松原」と呼ばれ能代市民の憩いのフィールドとして利用されている後谷地（うしろやち）国有林 301.47ha と、強風による砂の移動を防ぐ機能の発揮が期待される大開浜（おおびらきはま）国有林 40.52ha 合わせて 341.99ha です。

米代西部森林管理署ではマツクイ虫被害の発生原因となる羽化直後のマツノマダラカミキリ成虫の駆除を目的とした薬剤散布を 6 月に実施しましたが、成虫による食害を受けたマツは夏以降赤く変色し枯れ始めます。

枯れたマツの内部には「マツノザイセンチュウ」というマツ枯れの原因となる線虫と線虫を保有するマツノマダラカミキリ幼虫が潜んでいます。

この幼虫が翌年の 6 月前後に羽化し健全なマツを食害することによってマツ枯れの被害が再発するメカニズムです。

このことから、マツノザイセンチュウそのものの駆除はもちろんのことですが、来春以降に羽化する幼虫を駆除することがとても重要となります。

そのためには、被害を受け枯れたマツを林内から除去し、適正に処理しなければなりません。

米代西部森林管理署では、被害木を伐り倒した後に薬剤を散布しシートで覆い薫蒸処理を行う「伐倒駆除（ばっとうくじょ）」と、伐り倒した後にチップパーという機械を用いて木片を 10cm 以下に破砕する「特別伐倒駆除（とくべつばっとうくじょ）」の処理方法を行っています。

シートで覆い薫蒸処理する「伐倒駆除」	チップパーにより破砕する「特別伐倒駆除」
	

林内から除去し処理するためには、正確に被害木を見つけ直径や木の高さを測定しなければなりません。

ドローンも活用可能ですが、被害木の正確な確認や測定にはどうしても人力で調査せざるを得ない現状です。

このことから、米代西部森林管理署では職員総出で各森林官を班長とする 7 班に分け、横一列の隊列をとりローラー戦術で調査を行いました。

米代西部森林管理署能代森林事務所所属野村技官がドローンの活用について試験研究し、東北森林管理局で昨年度発表、11月30日には林野庁にて発表します。

横一列に隊列を組んでいるところです	隊列を乱さぬよう調査しているところです
	

約 342ha の面積（東京ドーム約 68 個分）をローラー戦術で行うためには各班ならびに一人ひとりの連携した行動が大事となり、少しでも連携が崩れると効率性や精度が低下してしまいます。

このため、調査初日の 9 月 20 日に関係職員全員が集合し、調査の進め方や注意点について共有・確認する打合せ会議を行いました。

また、日々の作業前にも各班のミーティングを入念に行いながら調査を進めました。

調査に従事する職員全員で留意点等について話し合いました	作業環境や人員が変わることもあるため、日々のミーティングも重要です
	

このように綿密に連携を取り合いながら始まった調査も 10 月 17 日まで、延べ 12 日・174 人をもって無事終了しました。

今後は、調査結果を踏まえ除去費用計算を行い、12 月下旬から 3 月上旬を作業期間とした駆除作業を実施する予定です。

【皆様方へのお願い!!】

米代西部森林管理署が行うマツクイ虫防除事業の実施に当たり、駆除作業中は市民の皆さんをはじめ観光を目的に訪れる方々にも通行規制や騒音等でご不便とご迷惑をお掛けしますが、駆除作業に対するご理解とご協力について何卒よろしくお願いたします。

☆あと書き☆

職員総出による被害調査も 16 年目となりました。

職員の減少と高齢化の中、通常業務を抱えながら約 1 ヶ月に及び被害調査に従事した各森林官ならびに森林事務所所属職員の皆さん、本当にお疲れ様でした。